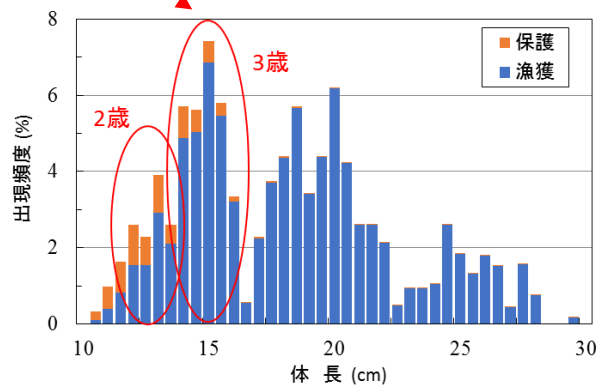


アカムツ（のどぐろ）の漁獲物調査と資源管理の取り組み

底びき網漁が9月から始まり、産地市場では、消費者ニーズが高いアカムツの水揚げが続いています。海洋センターでは、アカムツ資源の持続的な利用に向けて、市場に水揚げされるアカムツの体長組成や未成熟な小型魚を保護するための網目拡大の効果などを調べています。例年、体長12～13cmの2歳魚が水揚げの主体ですが、今年は15cm前後の3歳魚が多いのが特徴です。これは2018年生まれが他年に比べ多かったためと考えられます。アカムツ漁では、多くの漁船で13節（約2.5cm）の細かい網目が使われ、小型魚の多獲が問題となっていますが、一部の漁船で9節（約3.8cm）に網目拡大されたことで、市場価値がなく海上でリリースされる体長10cm未満の1歳魚の約半分が保護されています。今後は6節（約6cm）に拡大することで、より多くの小型魚の保護を目指し、漁業者との協議を進めていきます。



網目9節で漁獲されたアカムツの体長組成（9月2日舞鶴市場）
（6節に網目拡大することでオレンジ色の部分が保護されます）